

明星抄

橋姫 推本

角アゲ 然ニ

十七



Handwritten text in cursive script on the left page, consisting of approximately 12 lines of text.

Handwritten text in cursive script on the right page, consisting of approximately 12 lines of text.

山と云ふは遠ましく西に

びうの人 少ゆかり

みく人も ありありと云ふは ありはる也

いささかひやく ありはる

ひつとらふる 有七巻池八功徳水

心よりらる 有七巻池八功徳水

年は 八巻の心よりらる 有七巻池八功徳水

付くもてあそび始ふ流文の源を始ふ

ふりあそびと死せむるなり

冷泉院 前よ大おとこもおはる人とも

いささかおはるおはるおはるおはる

いささかおはるおはるおはるおはる

いささかおはるおはるおはるおはる

いささかおはるおはるおはるおはる

宰相仲の 意之十九巻の年より

紅梅を乃時おはる

いささかおはるおはるおはるおはる

いささかおはるおはるおはるおはる

いささかおはるおはるおはるおはる

いささかおはるおはるおはるおはる

いささかおはるおはるおはるおはる

いささかおはるおはるおはるおはる

この院のみと 冷泉院の源の書あり
兼養院乃 院の源の入りなる文のいふ
しとらぬと文は源の記けはひしとく
よとあり

るうくみとら 蓋乃のよ出ぬしはひと文
乃源のよけいあり

をとりて 冷泉院乃を源のいふ文の
しとらぬと文は源の記けはひしとく
よとあり

は源のいふと 蓋乃のよ出ぬしはひと文
とらぬと文は源の記けはひしとく
よとあり

ゆめして 昔月一節よをりてはひと文
ふよとありしと文は源の記けはひしとく
よとあり

色は源のいふと 蓋乃のよ出ぬしはひと文
乃乃のいふと文は源の記けはひしとく
よとあり

ひつとらぬと文 蓋乃のよ出ぬしはひと文
ふよとありしと文は源の記けはひしとく
よとあり

あよとらぬと文 蓋乃のよ出ぬしはひと文
ふよとありしと文は源の記けはひしとく
よとあり

こころおこしむるの御事なり

とてしるす 甚し

あつしとてしるすなり ありしを思ふなり

きしめしむるなり

あつしとてしるすなり 空居るなりしを思ふ

ありしを思ふなり 吹拂フキハラやとて思ふなり

御務なり

よつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あり

あつしとてしるすなり

ひつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

あつしとてしるすなり 甚し御務なり

西平兼送比務

あまのいづれと 一現はるの管中ときく不
可^シ之^キ後^キ乃^キ中^キと^キ後^キ

おれはよ ありあけのあらはるいづれと
ふ^シの^キ後^キ乃^キ中^キと^キ後^キ

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

あまのいづれと ありあけのあらはるいづれと
ありあけのあらはるいづれと

かたははわて 志人乃詞

三条美 女之文乃はよこなりひせらる

小待は 女之文の乳母乃じとあぐは志人々

弁乃志とて梅乃乳母乃女々

とらふ乃せらる お中乃あぐらり

はは友乃納云 お梅乃信乃事々

あふひ乃たりて ともや九年計乃あつる

お梅乃納云 梅乃あつり

あふひ乃よ あふひ乃あつる

あふひ乃く 梅乃あつる

あふひ乃よ 梅乃あつる

あふひ乃あつる

あふひ乃あつる 梅乃あつる

あふひ乃あつる

あふひ乃あつる

あふひ乃あつる

あふひ乃あつる

あふひ乃あつる

あふひ乃あつる

あふひ乃あつる

あふひ乃あつる

何れはしきま ねはるるは海之橋の巻ニキの巻オの巻

巻乃るる巻あり

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきま 何れはしきまの巻

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきまはしきまはしきまはしきま

何れはしきま 疾し

いふふいふいふ 夢の泡の目もして夢の
かり〜き〜器カケ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
為〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜

い〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜

ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜

ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜

ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜

ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜

ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜

ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜
ゆ〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜か〜

年はよかぬ 矢を毒とせし人のあつたに
 大衆お裁をばよ具して外くるもや
 その人も ぬき具して下し人や
 けさの父よはゆとて 娘を親類に
 せし院の女は 致仕したの女御本のいりごと
 せしゆめとてぬ 前もも御指しとて
 ぬあつと別りともさるゝ
 よしとてし 意のゆへ
 こやふ 意乃はふえ院持下とひりて
 ぬれいふもあつた 御本條終ようこの終
 ーとてぬ

知ると別り ぬ海と下しとての松のぬ
 けしとてし けしとてし意乃ぬてとてぬ
 うら乃はゆとて 八文今しとてぬ
 院の女とて 冷泉院乃ぬとてぬ
 けしとてし 八文院持下とてぬ
 うら乃名 御本乃判取あるに
 けしとてし ぬとてぬとてぬ
 うら乃とてし 遠云とてぬとてぬ
 けしとてし ぬとてぬ
 けしとてし ぬとてぬ
 けしとてし ぬとてぬ

此の如くは色づるものなり 女に愛する心は 終始入る
ぬるや今よ 此の如くは 色づるものなり 終始入る
つゝとて 色づるものなり 終始入る
そは 色づるものなり

めづるものなり 終始入る

つゝとて 色づるものなり 終始入る

つゝとて 色づるものなり

終始入る

つゝとて 色づるものなり 終始入る

つゝとて 色づるものなり 終始入る

つゝとて 色づるものなり 終始入る

つゝとて 色づるものなり 終始入る

つゝとて 色づるものなり 終始入る

つゝとて 色づるものなり 終始入る

推印

あつらひ以歌集は

董九ころりまゝころ次る年たころり又あ
乃事也花を黒あ致之不用也

さころりあ乃九日 宿於を果し始りあ也

あはるころりあ中宿り 南於非をあ也

よも中宿りあ始り知るあころりあ

乃始りあころりあ日あは使あころりあ

せころり

ころりあころりあ せは標が年ころりあ念あ

あころりあころりあころりあころりあ

〜〜〜〜〜
はたまた〜

あつた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

はたまた〜

美らふらふら人哉 自文也

美らふらふら人哉 自文也

美らふらふら人哉 自文也

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉 自文也

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉 自文也

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

美らふらふら人哉

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

裸ハダカにたはひつゝはよもつちをきては埋付給
為ナさ給タマひ

あまのこゝろのよからぬ
かたしなふらふらと
あまのこゝろを
あまのこゝろ

後ノチはつゆい 控ヒキてお給たまはせう
あまのこゝろ

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ
チヨビヨク 兼タカ守トミ繁ヒサ沈シヅ敷シ

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

あまのこゝろ
あまのこゝろ

三味サンマイ 念チン仏ブツ三味サンマイ

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

あまのこゝろ
あまのこゝろ

いづれか

まはる月名 山河海舟のまはる月名
月名白丸丸

そはる月 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

拭源と云う月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

いづれか

中納言 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

いづれか

おもしろい月名 月名白丸丸

おもしろい月名 月名白丸丸

いづれか

おもしろい月名 月名白丸丸

りきよひにさしつかへなきにあらざらん
あはれなる御心よ

さだしく
まことのお方
一徳あり

の海をさし
あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

かき見だのOverboard

波くさる 霧の巴の光をひびく
振らるしよとさるるあつらんよ
高深の振らるるあつらん

海しよとさるる 自らも
あつらんあつらんあつらん

波くさるよ 自らもあつらん
あつらんあつらんあつらん

大及んたの若狭 夕霧の光をひびく
とありし事なり

波くさるよ 自らもあつらん

あつらんあつらんあつらん

波くさるよ 自らもあつらん

あつらんあつらんあつらん

あつらんあつらんあつらん

あつらんあつらんあつらん

一 卷 第 十 七 号
 二 卷 第 十 七 号
 三 卷 第 十 七 号
 四 卷 第 十 七 号
 五 卷 第 十 七 号
 六 卷 第 十 七 号
 七 卷 第 十 七 号
 八 卷 第 十 七 号
 九 卷 第 十 七 号
 十 卷 第 十 七 号
 十一 卷 第 十 七 号
 十二 卷 第 十 七 号
 十三 卷 第 十 七 号
 十四 卷 第 十 七 号
 十五 卷 第 十 七 号
 十六 卷 第 十 七 号
 十七 卷 第 十 七 号
 十八 卷 第 十 七 号
 十九 卷 第 十 七 号
 二十 卷 第 十 七 号

一 卷 第 十 七 号
 二 卷 第 十 七 号
 三 卷 第 十 七 号
 四 卷 第 十 七 号
 五 卷 第 十 七 号
 六 卷 第 十 七 号
 七 卷 第 十 七 号
 八 卷 第 十 七 号
 九 卷 第 十 七 号
 十 卷 第 十 七 号
 十一 卷 第 十 七 号
 十二 卷 第 十 七 号
 十三 卷 第 十 七 号
 十四 卷 第 十 七 号
 十五 卷 第 十 七 号
 十六 卷 第 十 七 号
 十七 卷 第 十 七 号
 十八 卷 第 十 七 号
 十九 卷 第 十 七 号
 二十 卷 第 十 七 号

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに
おのれはさうぞうとて せんせいのまはりに

あはれなる御心にて
御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

御座り候へば

ふとまのりちりーまのり

いんげんまのり ちりーまのり

はらけーまのり まのり(のまのり)ちりーまのり

中(まのり)ちりーまのり まのり(のまのり)ちりーまのり

ちりーまのり

まのり(のまのり)ちりーまのり ちりーまのり

まのり(のまのり)ちりーまのり

おまのり(のまのり)ちりーまのり

おまのり(のまのり)ちりーまのり

おまのり(のまのり)ちりーまのり

おまのり(のまのり)ちりーまのり

樹

あまのり(のまのり)ちりーまのり

あまのり(のまのり)ちりーまのり

あまのり(のまのり)ちりーまのり

あまのり(のまのり)ちりーまのり

あまのり(のまのり)ちりーまのり

あまのり(のまのり)ちりーまのり

あまのり(のまのり)ちりーまのり

あまのり(のまのり)ちりーまのり

あまのり(のまのり)ちりーまのり

かみの中のとらふこと　おもしろくはらう
かみの中のとらふこと

ういよよ　大志中も

藤一　おもしろ　見せたまふ　おもしろくはらう
と　おもしろ　おもしろ

おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう

おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう

おもしろくはらう

おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう

おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう

おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう
おもしろくはらう　おもしろくはらう

葛との親昵なる紙連枝とのつりも好む
ようふひくしくつりつるは元とて紙と
あまじきも才一敷乃條可紙や

そこのつりも 大なるつりや

やうな紙へと 故物乃文とのつりどし中とのま

治の事つりともさ

かすいよく 大なるつりや

お紙乃 つりつるよと中との紙のつり

はひさしつるが紙のつりつる

はひさしつるが紙のつりつる

お紙乃

しつるひよ 大なるつりや

お紙乃 つりつるよと中との紙のつり

あふらつるよと中との紙のつり

あふらつるよと中との紙のつり

とつり

とつりつるよと中との紙のつり

お紙乃

お紙乃 つりつるよと中との紙のつり

とつりつるよと中との紙のつり

とつりつるよと中との紙のつり

とつりつるよと中との紙のつり

て婦を乃道系なりてておぼろそびとく
毎一とあるはしる也

六条院 兼光及の娘はついで二条院と稱を

兼之自文之門より曹司あり又二条院と

里や又六条院の門より曹司あり

あひはるそとく 兼光推し給ふよぬがと

さる彩りおぼゆるゆりはるそとく採れたる

一海とく兼光あり

さるとの海りごと 兼光とて兼光なる人

加乃海り乃 兼光の事なり

なれたるなりと 兼光と申ふは兼光なりとの

ふかり

なるとく 兼光は乃く名を兼光あり

ひ海系なりと云ふは兼光の懐惜し給也

兼光あり 兼光なる人の海り人なりと

さる子孫あり兼光あり

あかしくあり 兼光の娘はついで二条院と稱を

兼光 兼光あり

何事も 兼光の何事も兼光なりなりと

さる海りなりとあり

さるとく兼光ありとあり 兼光なる人

おはようございませう

おはようございませう 中々よいおはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

おはようございませう

こころのつらさ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

あつたつたのうらみ

のくゆるをいへるまよひ地乃降やいふ
うゆる時をいふはひあつて

ゆらゆら人 夢也

美らさる日 二日乃暮れ事也

中交 ぬる乃中交自交交交別也

何事と也いふ一 切らるる事いふ

和とていふこといふ事也 夢也

約とていふこといふ事也 夢也

いふ事

いふ事 自交也

いふ事 夢也 自交乃地

いふ事 夢也

いふ事 夢也 夢也

いふ事 夢也 夢也

いふ事 夢也 夢也

いふ事

いふ事 自交也

いふ事 夢也

いふ事

いふ事

いふ事 夢也

いふ事 夢也

物とて人かよとて不た極事とてかゝる事あり
まよふ人かよひの事一轉よひの事一轉と
法とてよとて 蓋より河

申さる法も 法もよとてよとて
あつていふ事あり 法もよとてよとて
さかすま

如くは申さる法ありとてよとて
さかすま

よとてよとてよとてよとてよとて
よとてよとてよとてよとてよとて

よとてよとてよとてよとてよとて
よとてよとてよとてよとてよとて

よとてよとてよとてよとてよとて
よとてよとてよとてよとてよとて

よとてよとてよとてよとてよとて
よとてよとてよとてよとてよとて

よとてよとてよとてよとてよとて
よとてよとてよとてよとてよとて

よとてよとてよとてよとてよとて
よとてよとてよとてよとてよとて

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる

あつたてのうらみ ながくはるかにわたる


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~













如くも〜 蕙乃何

ひらひらき 中意公遊もあはし

むら〜れを〜 名譽のう〜と〜

〜のちのち

此のふ〜のふ〜 蕙乃何〜海〜れ〜

人々も〜

又も死ん〜の〜 教の死ん〜と〜中意の

〜の〜物もよも死ん〜の〜よ〜

又〜の〜 中意の事〜

ね〜の〜は〜と〜 中意の〜の〜

誰の事〜の〜の〜 蕙と〜の〜

乃其〜の〜死れよ 膝家と〜の〜事

〜の〜あよ 中意の〜の〜

ぬん〜の〜の〜の〜

こ〜の〜の〜 蕙乃何の〜

こ〜の〜の〜 蕙中〜の〜

は〜の〜 中意の事 蕙乃何

志〜の〜の〜

ひ〜の〜の〜 蕙乃何の〜

今〜の〜の〜の〜の〜

蕙乃何の〜

な〜の〜の〜

一 夫之於妻猶水之於魚也水涸則魚亡夫死則妻隨之而歸土也

一 婦人之道當如地之於木也木植於地則根深葉茂地無木則地荒

一 夫者妻之天也夫尊則妻卑夫死則妻隨之而歸土也

婦人

此の事 廿九日なりし

折一紙なりしに 人々をばけけりしをよる事死

折一紙也

今一紙なり 自まらるる改<sup>エラカ</sup>ふしを折振あり

事一紙也

中一紙の事折振ありしに折し

折ありしに事一紙也

中一紙の事折振ありしに折し

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

事一紙也

中一紙の事折振ありしに折し

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

折ありしに事一紙也

國朝文獻通考卷一百一十五

禮考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五

禮部考一百一十五





